

読売歌壇

小池 光選

大相撲の観客のなかに父を見た五十年前に逝きたる父を

【評】大相撲のテレビ中継。観客席がよく写る。その中に亡き父によく似た人が一瞬写って、はっとする。父ではないか。すでに没後半世紀が過ぎているのに。

牧場にレストランあり肉を焼く香に包まれて草を食む牛

【評】こういうレストランがあるらしい。新鮮な牛肉を焼いて食べさせる。そのおいしそうな香り。その香をのんびり草食む牛たちはどう聞けるのだろう。アイロニー深い歌。

紙を裂く音に反応する赤子新聞裂くをいばん喜ぶ

【評】生後間もないころか。紙を裂く音が大好き。特にびりびりと新聞裂く音が好き。その気持ちは分からないが、大物になりそう。八十年使ったんだな。苦勞さん業めりつつ膝をねきろう

貨客船にようやく着きしあの夏の古きアメリカ恋いおり今も

【評】「ゆつくりね」昔なで声聞きようやと杖を持たずに歩いた十歩

来春にひ孫生まれて来ると云う息子は爺に夫はひい爺

下駄履きの男が闊歩した時代「我が良き友よ」歌ひて思ふ

余命少ない父が看護師にわれのこと自慢せし笑顔今も忘れ得ず

父明治母は大正我昭和孫平成で令和の生れ

焼津市 山下 邦子

栗木 京子選

魚にも鳥にもなれぬ人間は海にも空にも見えぬ線を引く

【評】領海や領空という語があり、各国の主権の及ぶ区域を指す。その線引きをめぐって争いが起きてしまふ。境界線を自由に越えることのできる魚や鳥への憧れが伝わる。

鉄も躍り白紙を切り抜けば情緒めたかなお題の形

【評】寄席で巧みな紙切りの芸を披露してきた林家三楽氏の死を悼む歌。観客の告げる題にに応じて、たちまち見事な切り絵を完成させた。「躍り」から洒落なしでさがしのはれる。基準値を外れていると献血ができなかった夏、点滴の秋

【評】夏から秋へと体調を崩した作者。ついに点滴を受ける身になった。献血の際の検査で不調の始まりを知ったことが印象深い。

わが庭の金木犀は五十歳きょうもスズメをやさしく抱く

雪虫の一匹二匹が浮遊せり首相が誰でも冬はまた来る

竜胆のつぼみのひとつまたひとつ夫の仏壇にひらく紫

鉄橋を渡るおっこの音でいつも気がつく乗り過ぎたと

深夜までシェイクスピアを読んでいたあの青春は極上だった

真夏の日の連続記録途絶えた日書店に並ぶ来年の手帳

過疎の村に歌を流して軽四がゆつくり廻る移動販売

川越市 中沖 稔

俵 万智選

賞味期限内に会えたら渡したいお土産ひとつ余分に買って

【評】突然のプレゼントは相手を手戸惑わせるが、お土産なら渡しやすい。上の句からは、必ず会えるわけでも、わざわざ渡すほど親しいわけでもないことが分かる。心の区切りとして活用される「賞味期限」が効いている。

餌台へある日雀が来なくなる訳の分からぬさよならもある

【評】もったいない餌場を見つけたのか、モズにでも捕食されたか。具体的な上の句を受けているが、下の句の切なさは普遍的性がある。開きたる改札口のチュリッパチンコ玉になつて私

【評】混雑する改札口に、通り抜けようとする人々を、パチンコ玉にたとえた。高いところから自分を捉える視点が面白い。

社会ってそういうもんだと割り切つてアボカドの種を迂回して切る

駅前前のシューウィンドウはこの冬をなんなく越せる人たちのため

予定外ばかり起きてる予定など立てた覚えのない人生に

パンくずをそっと落としていくように自分のために唱えることば

何匹かが羊が群れを逃げ出したみたいに消えるわれのポイント

肉じゃがを煮ながら願う明日のことありきたりでもたいせつなこと

付き合っていないふたりの間にはワザサのオプジェが綺麗に写る

高崎市 杉橋 慶風

黒瀬 珂瀾選

「国宝は穀宝」の札かかげたる案山子に棚田の稲穂が揺る

【評】米農家の人が作った看板だろう。米作はこの日本の国の根幹である、という誇りが込められているが、洒落つ気も満載。これを見た作者の驚きと共感もよく伝わります。書棚にはアクスタたちが居並んで背後にひかえる辞書参考書

【評】最近流行りの推しグッズのアクリススタンド。本棚では本よりも推しのアクスタがわがもの顔で並ぶ。うちの本棚にも無一郎くんや天使の悪魔くんが居るのだから、わかる。人間に花言葉なんて付けられてどうだんじやないと花々の言う

【評】僕も常々そう思ってきました。花言葉などというものは人間が恣意的につけたに過ぎない。花本来の美しさに向き合いたい。

箱の中の新聞にくるまれたまま光さずつて芽吹くじやがいも

我が妻の遥かなる日の三つ編みの澄みにし瞳を思ふ介護に

秋草の刈られし原に残しおく誰の計らひ野菊うつくし

夫と食みし最後の蕎麦はふるさとの「へぎそば」今年も白き花咲く

釈迦ヶ岳は三度登りぬ縄文の土器の欠片のありしと聞けば

4Bで国勢調査黒く塗り宿題のごと投函したりめずらしく級友からの文とく文字のみだれが

ちと気になるが

熊谷市 間中 昭